試着室でドアの閉め方分からないふりして全裸で女性スタッフを呼んでチンコ見せつけた話

夏が近づくにつれ、俺は久しぶりに新しい水着を買おうと思い立った。仕事も一段落した週末の午後、家の近くの大型スポーツ用品店へ向かった。水着コーナーで俺は無難な黒のシンプルなものをいくつか手に取った。

そこでスタッフの女の子を見つけた。身長は俺の肩くらいで、黒髪が綺麗だ。白いポロシャツがそこまで大きくない胸でも際立たせている。笑顔で他の客に対応している姿を遠

くから見て、思わず息を呑んだ。とにかく美人だった。目が大きく、唇が柔らかそう。

その瞬間、俺の中で邪な考えが芽生えた。こんな美しい女の子に、自分のチンコを見てほしい。ただそれだけだった。もちろん、普通に見せつけるのは犯罪になる。だから合法的な形で、自然に、仕方なく、という状況を作らなければいけない。頭の中で素早くシミュレーションを回した。

俺は水着を二着ほど選び、彼女の方へ近づいた。「すみません、この水着を試着したいんですが」と声をかけると、彼女は振り返って優しく微笑んだ。「かしこまりました。試着室へご案内しますね」

彼女に先導され、店の奥にある試着室エリアへ向かう。カーテンではなく、しっかりした木製のドアが並ぶ個室タイプだった。彼女は一番端の部屋を開け、「こちらをご利用ください」と丁寧に言った。

俺は部屋に入り、ドアを閉めかけたところで、わざと困ったような声を出した。「あの、鍵の閉め方が……ちょっと分からなくて」。本当は普通に閉められる。でも彼女を呼ぶための布石だ。彼女は「あ、こちらをこう回していただくとロックできますよ」と軽く説明しかけたが、俺は「一度中で確認してみます」と曖昧に答え、ドアを閉めた。